観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年７月 28 日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	一般社団法人 Clan PEONY 津軽	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 青森県弘前市、黒石市、五所川原市、つがる市、平川市、鰺ヶ沢町、深浦町、西目屋村、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町、鶴田町、中泊町	
所在地	青森県弘前市	
設立時期	令和２年４月１日	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	８人【常勤８人（正職員０人・出向等８人）、非常勤０人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者）	（氏名） 理事長（非常勤） 櫻田　宏 （出身組織名） 弘前市	現職の弘前市長。市長当選前は市民協働課長や観光振興部長を歴任し、プライベートでも多種多様な人が集まり意見を交わして良いアイディアを形にする「弘前感交劇場」、「やわらかネット」に参画しており、住民との協働や観光に知見の深い人物。 他市町村のキーパーソンともつながりが深く、代表者として適任として理事長に就任した。

様式１

※必ず記入すること		
専務理事 兼 事務局長	（氏名） 笹田　哲文「専従」 （出身組織名） 弘前市	弘前圏域の自治体との広域連携事業（産業振興、移住・定住等）や産学官金連携による研究開発プロジェクトの事務局を務めるなど、行政、関係機関との企画調整の業務経験を有する人物。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 笹田　哲文「専従」 （出身組織名） 弘前市	専務理事、事務局長と兼務。 地域食材や健康医療素材等の展示商談会において市場調査を実施し、地元企業の商品開発・販路開拓支援の業務経験を有している人物。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 對馬　智文「専従」 （出身組織名） 五所川原市	（株）みちのく銀行で約５年間勤務。銀行業務で培った豊富な金融知識を活かし、持続可能な運営のため、運営収支や財源確保に関する検討を行う。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	**＜中南・西北エリアのマーケティング、商品開発・社会資本整備・地域公共交通等担当課との連携窓口、その他関係団体との連携窓口＞** 弘前市観光部、弘前市地域交通課、黒石市商工観光部、五所川原市経済部、つがる市経済部、平川市経済部、鰺ヶ沢町企画観光課、深浦町観光課、西目屋村産業課、藤崎町経営戦略課、大鰐町企画観光課、田舎館村企画観光課、板柳町商工観光課、鶴田町商工観光課、中泊町水産商工観光課	

	＜情報提供、助言＞ 青森県観光交流推進部、青森県中南地域連携事務所・西北地域連携事務所
連携する事業者名及び役割	**＜宿泊＞** 青森県旅館ホテル生活衛生同業組合、五所川原市旅館組合、弘前旅館ホテル組合、西十和田旅館組合、大鰐温泉旅館組合、南田温泉ホテルアップルランド、グリーンファーム農家蔵、柏木温泉、からんころん温泉、つがる温泉、古遠部温泉、羽州路の宿あいのり、（一財）ブナの里白神公社、（株）杉澤興業、青森リゾート（株）、つがる地球村（株）、（株）つがる総合商社柏ロマン荘、旅の宿斉川、（株）黄金崎不老不死温泉、しらかみ十二湖（株）、津軽おのえ温泉福家、津軽温川温泉、民宿はせ川、長寿温泉など **＜交通＞** 弘南鉄道（株）、津軽鉄道（株）、東日本旅客鉄道（株）秋田支社、弘南バス（株）、中里交通(株)、（株)中里観光、（一社）青森県タクシー協会、（株）平賀ハイヤー、大鰐交通（株）など **＜着地型旅行商品造成＞** （公社）弘前観光コンベンション協会、（一社）黒石観光協会、（一社）五所川原市観光協会、つがる市観光物産協会、岩木山観光協会、大鰐温泉観光協会、（一社）平川市観光協会、（一社）深浦町観光協会、（一社）鰺ヶ沢町観光協会、目屋観光協会、板柳町観光物産協会、藤崎町商工会、（一財）ブナの里白神公社、鶴田町観光協会、（一社）中泊町文化観光交流協会、(株)中里観光、あおもり創生パートナーズ（株）など **＜地域資源の磨き上げ（特産品の開発など）＞** 弘前商工会議所、（公社）弘前市物産協会、津軽藩ねぷた村、黒石商工会議所、黒石物産協会、Knock²World、（特非）横町十文字まちそだて会、こみせ観光ボランティアガイドの会、黒石つゆやきそば伝紹会、五所川原街づくり（株）、五所川原商工会議所、金木商工会、市浦商工会、十三漁業協同組合、Y.C.M 吉幾三コレクションミュージアム、五所川原市サイクリング協会、（一社）かなぎ元気村、（特非）かなぎ元気倶楽部、企業組合でる・そーれ、（株）トーサム、（有）ヤマホ竹鼻製麺所、金木農産商事、（株）やまと商社、（株）JIN CARE、三好むらづくり協議会・三好地区農産物加工センター、福士豆腐店、（株）アグリコミュニケーションズ津軽、つがる市商工会、（同）じょっぱりの里、道の駅もりた、平川市商工会、道の駅いかりがせき「津軽関の庄」、平川市尾上農村環境改善センター「さるか荘」・ふるさとセンター、猿賀神社、国指定名勝盛美園、清藤氏書院庭園、四季の蔵もてなしロマン館、津軽みらい農業協同組合、（特非）めーりんごネット、鰺ヶ沢町商工会、深浦マグロ料理推進協議会、（株）ふかうら開発、春光山円覚寺、（株）あおもり海山、（株）西崎水産、西目屋村商工会、白神マタギ舎、西目屋村観光ガイド会、Canoe＆Rafting A'GROVE、白神案内山の会、（有）エコ・遊、環白神エコツーリズム推進協議会、（株）ふじさきファーマーズ LABO、大鰐町商工会、プロジェクトおおわに事業協同組合、青森リゾート（株）、（株）鶴の里振興公社、中泊町商工会、中泊メバル料理推進協議会、（株）アクトプランなど **＜情報発信＞** （株）エフエム青森、（株）五所川原エフエム **＜学校＞** 大学コンソーシアム学都ひろさき、弘前大学、弘前学院大学、柴田学園大学、弘前医療福祉大学、放送大学青森学習センター **＜金融機関等＞** （株）青森みちのく銀行、東奥信用金庫、あおもり創生パートナーズ（株）

<table>
<tr><td>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</td><td>【該当する登録要件】①、②
（概要）
①役員である理事に、行政、観光事業者、交通事業者、宿泊事業者を配し、地域の多様な関係者が運営に参画。
※2025 年下半期に宿泊事業者及び交通事業者を理事として追加予定
②観光資源の関係者、宿泊事業者、交通事業者、商工会、行政が参画し、当法人が事務局を務める連絡会・ワーキンググループを設置。
〔参考〕登録要件
①取締役、理事など観光地域づくり法人の意思決定に関与できる立場で行政、文化、スポーツ、農林漁業、交通等の幅広い分野の関係団体の代表者が参画。
②観光地域づくり法人が主導して行政や関係団体をメンバーとするワーキンググループなどの委員会等を設置。</td></tr>
<tr><td>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</td><td>年に１回程度、域内の関係者や地域住民を対象に、観光地域づくりに関する勉強会やワークショップを開催し、外部有識者の講演をもとに議論を交わすことで、意識啓発や参画促進につなげる。
データ収集が進んだ後はデータをもとに議論を交わし、自ら積極的に問題を分析し、課題解決に向けた議論ができる人材を育てる。地域住民には、地元への誇りと愛着を持ってもらうことを大切にしたいため、地域のイベントやまつりに積極的に参加してもらう仕組みを考え、関係者や住民が一体になった地域づくりに繋げる。</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td>【活動の概要】
<table>
<tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr>
<tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>一次交通事業者やメディア、大手百貨店等と連携して幅広い地域に津軽地域の魅力を発信する事業だけでなく、県内・東北全体での周遊観光の促進や地域の事業者・住民などに向けた情報提供なども実施している。

＜JR 東日本と共催した観光キャンペーンの実施＞
［2023 年度］
JR 東日本の重点販売地域に津軽地域が選定され、地域内で特別造成した着地型旅行商品やローカルフードの販売、文化財等の特別公開などのほか、首都圏・仙台・札幌での観光プロモーション物産展を、4 月 1 日～6 月 30 日までの期間で実施した。
［2024 年度］
2023 年度に JR 東日本と共催した観光キャンペーンの継続事業として、津軽地域への誘客を目的に「津軽の食と体験めぐり」と題したキャンペーンを 8 月 1 日～10 月 31 日の期間で、「ツガルツナガル ～ココロあたたまる冬の津軽めぐり～」と題したキャンペーンを 2 月 1 日～3 月 31 日の期間で実施した。

＜（株）松屋との連携協定に基づく観光プロモーションの実施＞
［2023 年度～］
2022 年度に（株）松屋と締結した観光推進に向けた連携協定をもとに、松屋銀座（東京都）及びくずはモール（大阪府）において津軽地域の観光プロモーション物産展を開催している。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

			＜商談会での観光 PR＞ ［2023 年度］ 旅行会社が企画する団体旅行やクルーズ船ツアー等への新規コンテンツ組み込みを目的として、青森県や（一社）東北観光推進機構、（株）日本旅行などが主催する商談会に参加し、津軽地域の PR を実施した。 ［2024 年度］ 旅行会社が企画する団体旅行やクルーズ船ツアー等への新規コンテンツ組み込みを目的として、青森県や（一社）東北観光推進機構などが主催する商談会に参加し、津軽地域の PR を実施した。 また、台湾での津軽地域の観光コンテンツ PR を目的として、JNTO と（一社）東北観光推進機構が主催する「日本東北遊楽日」に出展し、台湾旅行会社との商談会や一般観光客向けの PR イベントに参加した。 **＜Web・雑誌等広告＞** ［2023 年度］ ・津軽地域の周遊観光促進を目的に「北東北 WEB マガジン rakra3・4 月号及び 5・6 月号」や「fashion&lifestyle マガジン mina2・3 月号」等の雑誌に広告記事掲載を行った。 ・津軽観光キャンペーン「ツガルツナガル」を発信することを目的に、エフエム青森及び弘前市出身タレントと連携して「ツガルツナガル B 面ツアー」と題し、4 月から 2 ヶ月間に渡ってラジオ放送を実施した。 ・2024 年 3 月 1 日～15 日の期間で「青森県、秋田県、岩手県、宮城県、東京都」の 20 歳から 65 歳の男女に Instagram 広告を実施した結果、延べ 21 万人に広告が表示され、うち 7,000 人が当法人のプロフィール画面もしくはリンク先に設定した法人ホームページに流入した。 ［2024 年度］ ・津軽地域の周遊観光促進を目的に「北東北エリアマガジン rakra8 月号」や「旅と鉄道 159 号」等の雑誌に広告記事掲載を行った。 ・当法人の体験商品「ツガルツナガル体験」の魅力発信を目的に、エフエム青森及び弘前市出身タレントと連携して、10 月から 2 ヶ月間に渡ってラジオ放送で PR を実施し、YouTube でも動画配信を行った。 **＜津軽地域の観光情報発信サイトとしての法人ホームページの運用＞** ［2021 年度～］ 津軽広域観光圏協議会が運営していたホームページの管理者を受け継いだ後、2022 年度に改修し、構成各市町村及び地域事業者から吸い上げた津軽地域の観光情報を発信するサイトとして運用している。 **＜各種 SNS での情報発信＞** 地域の観光資源やイベント情報、食文化等について Instagram、X、Facebook の公式アカウントで情報発信している。各 SNS のフォロワー数は以下のとおり。 Instagram：6,025 人、X：2,172 人、Facebook：575 人（2025 年 4 月 1 日現在） **＜広域観光マップの作成＞** ［2021 年度～］ 構成市町村の担当者及び地域のデザイン会社とともに、津軽地域を車で訪れる観光客向けに津軽地域の観光資源やイベント、着地型旅行商品等の情報が網羅された観光マップ「津軽広域探遊マップ」を作成した。

			毎年内容更新のうえ増刷を行い、地域内の観光施設等において配布しているほか、法人ホームページにもデータを掲載している。 **＜連携事業者へのメールマガジンの発行＞** ［2023 年度～］ 法人の連携事業者約 150 事業者に対して、2 ヶ月に 1 度のペースで法人の活動報告やマーケティングデータ、津軽地域のトピックスをまとめた「ツガルツナガル通信」を発行している。 **【他団体との連携】** **＜（一社）東北観光推進機構と連携した共通ブランド「Base!TOHOKU」推進事業の実施＞** ［2023 年度～］ 東北域内のロングステイにつながる共通ブランド「Base!TOHOKU」において、2 泊以上の連泊プランと、ロングステイの動機となる着地型旅行商品やドライブルートのモデルコースの情報発信を実施している。
	受入環境の整備		**インバウンド受入環境の整備を促すために地域別に現状の環境調査を実施しているほか、ガイド人材の育成や着地型旅行商品販売窓口の強化、周遊観光につながる交通施策の実験等を実施している。** **＜専門的人材を招聘した受入環境整備勉強会及び現地調査の開催＞** 2021 年度は NTT 東日本青森支店・弘前支店の協力のもと、田舎館村において Wi-Fi 環境の整備状況を調査し、Wi-Fi 環境を整備することで得られる情報やデータ分析等について学んだ。 2022 年度より、和テンション（株）及び（株）ジェイアール東日本企画を講師として招聘し、インバウンドの受入環境整備に係る現地調査等を実施している。 ［2022 年度］ ・大鰐町：大鰐温泉マップに記載の行程を実地調査し、Wi-Fi スポットや案内看板の設置状況確認を行った。 ・鰺ヶ沢町：インバウンド客向けの取り組み強化を検討中のレンタサイクルを使用しての実地調査を行った。 ・中泊町：観光の中心である宮越家を主に訪問し、日本語ガイドの案内を体験した後、（一社）中泊町文化観光交流協会等と意見交換を行った。 ［2023 年度］ ・弘前市：地域資源である津軽三味線の生演奏を鑑賞出来る市内の飲食店を「夜コンテンツ」とした、宿泊につながる体験観光商品の開発及び市内飲食店への普及の可能性を探った。 ・平川市：温泉施設や飲食店等の観光施設の多言語対応及びキャッシュレス決済環境の整備にかかる現状調査を実施した。 ・鰺ヶ沢町：2022 年度調査でのアドバイスをもとに鰺ヶ沢町で作成した PR 動画案がインバウンドに対応できているか検証したほか、鰺ヶ沢町で導入している観光情報アプリ「ココシル」を活用したレンタサイクルツアーがインバウンド向けに販売できるかの調査を実施した。 専門家のアドバイスを受けて見直しを行い、鰺ヶ沢 PR 動画を完成したほか、レンタサイクルツアーの法人ホームページでの販売を開始した。

			・大鰐町：多言語案内看板の設置や無料公衆無線 LAN 環境の整備等に向けて調査を実施した。 ［2024 年度］ ・黒石市：既存のヴィーガンサイトの周知及び PR 手法についての現地調査を実施した。 ・大鰐町：町内宿泊施設利用者を対象にした町内への誘導について現地調査を実施した。 ・鰺ヶ沢町：宿泊施設利用者の消費を促すディスプレイについて現地調査を実施した。 **＜旅ナカでの着地型旅行商品販売窓口の強化＞** ［2023 年度～］ 旅ナカでの着地型旅行商品の販売促進を目的として、津軽地域内 10 ヶ所の観光案内所と連携し、案内所に所属する 15 名の職員を観光コンシェルジュとして養成し、案内所等にて観光客に対面で着地型旅行商品の売り込みを行える体制を構築した。 **＜車中泊車を活用した周遊観光の実証実験ツアーの実施＞** ［2023 年度］ 2022 年度に日産自動車（株）及び日産サティオ弘前との三者で締結した協定に基づき、津軽地域の二次交通・宿泊施設にかかる課題解決に向けた、車中泊車を活用した実証実験ツアーを、2023 年 6 月 2 日～7 月 2 日の期間に実施した。 あらかじめテーマを決めた津軽ならではの 5 コースで催行し、参加者からは課題解決に向けた意見をいただいた。 **【他団体との連携】** **＜地域の観光ガイド養成講座「弘前ガイド学校」の実施＞** ［2023 年度～］ 地域住民を対象に、観光ガイドの人材育成を図る講座を開催しているほか、ガイドの活動を支援するため、講座修了者とガイド団体とのマッチング機能を有するプラットフォームを構築している。 **＜弘前ハイヤー協会と連携した定額観光タクシー運行＞** ［2023 年度］ 白神山地世界自然遺産登録 30 周年を記念して、定額の観光タクシーの実証運行を 2023 年 6～10 月の期間で実施し、弘前市内発着で 2～9 時間のコースを用意した結果、450 組を超える利用者があった。
	観光資源の磨き上げ		**地域の特色を活かした観光コンテンツ開発や土産品ブランドの立ち上げなど、地域事業者が稼げる仕組みを構築するべく、補助金等を積極的に活用しながら様々な事業を実施している。** **＜体験型商品予約販売システムの構築＞** ［2021 年度～］ 観光庁の「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」の一環で、旅ナカの観光需要を取り込むため、（株）JTB が提供する体験アクティビティ予約システム「JTB BOKUN」を導入し、2022 年 1 月から域内の着地型旅行商品を法人ホームページ経由で販売開始した。

			システム構築と並行して地域事業者と共に着地型旅行商品の造成を行い、2025 年 4 月 1 日現在で 36 事業者 67 商品を販売している。 　販売代金の 8%を当法人の手数料収入とすることで自主財源を生み出している。 　2023 年 4 月には、当該システムの構築について、東北 6 県及び新潟県に関わる観光振興を通じた地域の活性化に尽力・貢献し、その功績が顕著であった団体・個人に対して表彰する「フェニックスアワード 2022」を受賞した。 **＜観光庁補助金を活用した着地型旅行商品造成＞** ［2021 年度］ ・観光庁の「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」の一環で、黒石市をフィールドにりんご産業を観光コンテンツとして活用するためのツアーを造成した。 　りんご収穫体験や選果場ツアーを取り入れた津軽地域ならではのモニターツアーを 2 回実施し、14 商品を造成した。 ・観光庁の「アドベンチャーツーリズム等の新たなインバウンド層の誘致のための地域の魅力再発見事業」を活用し、エヌ・アンド・エー（株）協力のもと、弘前れんが倉庫美術館を中心とした高付加価値商品の造成を行った。 ［2022 年度］ ・観光庁の「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」を活用し、「弘前シードルダイニング」や「こぎん刺し体験」などのモニターツアー、「商品造成関係」や「デジタルマーケティング」「ガイド養成・SDGs」などのワークショップを行い、多くの学びの場から得た知識を活かし、地域の新たな看板商品の造成を行った。 ［2023 年度］ ・観光庁の「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」を活用し、国内客向けの着地型旅行商品を台湾人及び香港人の FIT リピーター層向けにブラッシュアップしたものを、海外 OTA との在庫連動販売など販路基盤を整備したうえで、Web メディア「WAmazing Discover」及び「Japaholic」等に広告掲載した。 ・観光庁の「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」を活用し、津軽地域の伝統工芸の製作体験を活用した欧米豪等のインバウンド向け着地型旅行商品を造成し、法人ホームページで販売した。 ［2024 年度］ ・観光庁の「地域観光新発見事業」を活用し、弘南鉄道で運行中のラッセル車に乗車できる体験コンテンツを造成した。また、ご当地アイドル「りんご娘」を「ツガルツナガル応援隊」に任命し、「りんご娘」と連携してポスターや SNS 等で「ツガルツナガル体験」の PR を実施した。 **＜文化庁補助金を活用した建築に焦点を当てた着地型旅行商品造成＞** ［2021 年度］ 　文化庁の「ウィズコロナに対応した文化資源の高付加価値化促進事業」を活用し、あおもり創生パートナーズ（株）等の協力のもと、弘前市内の建築を活用したマネタイズ手法について検討し、着地型旅行商品造成に向けたツアー及び建築家の谷尻誠氏を招いてのセミナーを開催した。

			＜市町村職員同士のワークショップから生まれたツアー磨き上げ＞ ［2020 年度］ 旅行商品造成発表会において選ばれた「津軽の自然満喫！空気までもおいしい！霊峰岩木山と世界自然遺産白神山地をレンタカーで巡るアクティブ女子旅」、「これでもかってくらい鉄道満喫ツアー」のトライアルツアーを実施した。ツアー全体やコンテンツに対する意見・感想をもとに、ブラッシュアップを行うことで旅行商品としての販売を検討した。 **＜コンセプトルームの造成＞** ［2023 年度］ （公社）弘前観光コンベンション協会及びクリプトンフューチャーメディア（株）と連携し、バーチャルシンガー・初音ミクの派生キャラクター・桜ミク（弘前さくらまつり公式応援キャラクター）を活用して、弘前プラザホテルの一室にキャラクターグッズ等を随所にあしらった特別室を造成し、3 月 11 日に 50 日分を販売したところ、販売開始 40 分で予約完売となった。 ［2024 年度］ ・（公社）弘前観光コンベンション協会及びクリプトンフューチャーメディア（株）と連携し、桜ミク（弘前さくらまつり公式応援キャラクター）を活用して、弘前プラザホテルの一室にキャラクターグッズ等を随所にあしらった特別室を造成し、3 月 14 日に 4 月 11 日から 5 月 31 日の 50 日分を販売したところ、販売開始後約 24 時間で予約完売となった。 ・観光庁の「地域観光新発見事業」を活用し、通年で体験できる鉄道好き向けのコンテンツとして、弘前市内の GOOD OLD HOTEL の一室に「弘南鉄道コンセプトルーム」を造成した。 ・五所川原市、パークイン五所川原エルムシティ及び五所川原市観光協会と連携し、五所川原立佞武多をテーマとしたコンセプトルームを造成・販売した。 **＜統一パッケージを使用した土産品新ブランドの造成＞** ［2023 年度］ 2022 年度に（株）松屋と締結した観光推進に向けた連携協定に基づき、著名なグラフィックデザイナーが手掛けた統一パッケージを使用した土産品新ブランド「謹製津軽たんげ」を立ち上げ、松屋銀座で開催した観光プロモーションや県内 8 ヶ所の土産物店において 19 品目を販売した。 ［2024 年度］ 土産品ブランド「謹製津軽たんげ」について 10 商品を追加開発し、松屋銀座で開催した観光プロモーションや県内 7 ヶ所の土産物店において販売した。 **＜もっと泊まりたくなる滞在プログラムの造成＞** ［2024 年度］ 津軽弘前屋台村かだれ横丁（弘前市）を会場に、実際の運行に参加する団体が囃子の生演奏を披露し、郷土料理 9 品を詰め込んだプレートを楽しめるコンテンツを造成した。会場には、現役絵師が手がけたねぷた絵や角灯篭、金魚ねぷたで装飾を行ったほか、大型スクリーンでは祭りの映像を投影するなど、お客様が弘前ねぷたまつりの熱気を感じられるよう工夫した。

観光客が来場しやすいように、土曜日を中心に８日間の開催日を設定し、計 151 名の来場があった。

【他団体との連携】
＜観光庁「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」を活用した着地型旅行商品造成＞
①黒石市：黒石市食文化を活用したインバウンド観光誘客整備事業
②平川市観光協会：「津軽の豊かな暮らし、文化、伝統芸能等を体感する旅」商品化事業
③弘前市（国際広域観光課）：HIROSAKI Heritage ～歴史的資源・農泊・酒蔵体験を活用した高付加価値観光商品化事業～
④鰺ヶ沢町観光協会：～「わんど」の AJIGASAWA！～ 地域観光資源を活用したインバウンド販売・促進プロジェクト
⑤かなぎ元気村：Well-being な縄文のムラの アドベンチャーエクスペリエンスプロジェクト
⑥つがる地球村：本州最北端で「津軽七雪」を味わう！モンゴルの移動式住居「ゲル」での冬キャンプ体験 「まるごと冬のつがる」体験コンテンツ造成事業

＜観光庁「歴史的資源を活用した観光まちづくりの推進事業」を活用した着地型旅行商品造成＞
金剛山最勝院：金剛山最勝院　寺泊並びに寺院体験受入れに向けての施設・境内整備事業

＜観光庁「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業（交通観光連携型事業）」を活用した着地型旅行商品造成＞
①弘南鉄道※弘南線：イベント列車企画開発・モニターツアー・実証運行事業　ほか
②弘南鉄道※大鰐線：地域一体となったりんご畑鉄道（大鰐線）高付加価値化推進プロジェクト

＜（公社）むつ小川原地域・産業振興財団「むつ小川原地域・産業振興プロジェクト支援事業」を活用した着地型旅行商品造成＞
弘前シードル協会：古都ひろさき・シードルダイニング

【定量的な評価】
＜着地型旅行商品販売実績＞

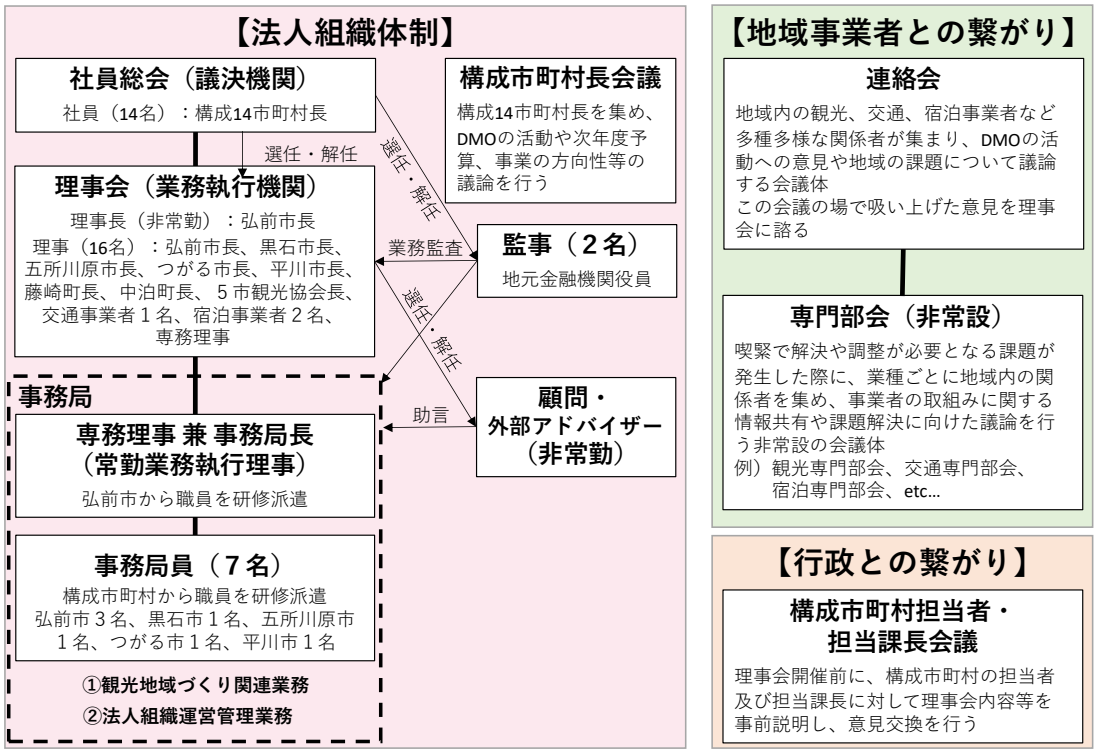
項目	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度（6 月 30 日時点）
連携事業者数	18 事業者	31 事業者	36 事業者	36 事業者
掲載商品数	27 商品	51 商品	67 商品	67 商品
販売件数	121 件	354 件	488 件	172 件
販売金額	938 千円	2,801 千円	4,255 千円	1,541 千円

実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** 当法人の連携事業者は約 150 事業者あり、全会員を一堂に集めることは難しいため、合意形成や意見聴取について下記のとおり各種会議体を設け、重要度の高いものについては理事会や社員総会に諮ることとしている。 **＜構成市町村担当者・担当課長会議＞** 年 3 回の頻度で、構成市町村の担当者及び担当課長が集まり、理事会開催前に、構成市町村の担当者及び担当課長に対して理事会内容等を事前説明し、意見交換を行う。 **＜理事会＞** 年 3 回の頻度で、5 市の市長、2 町の町長、5 市の観光協会長、交通事業者 1 者、宿泊事業者 2 者、金融機関 2 者及び専務理事が集まり、定時社員総会に諮る重要案件等について事前に意見交換を行う。 ※2025 年下半期に宿泊事業者及び交通事業者を理事として追加予定 **＜社員総会＞** 年 1 回の頻度で、構成 14 市町村長が集まり、法人の予算決算、重要案件について報告し意見交換及び議決を行う。 **＜DMO 実務者会議＞** 専門部会で抽出された課題のうち、地域全体の観光振興の障壁となり、解決に複数の業種での行動が必要なものについて、部会横断的に議論する会議体。 **＜専門部会＞** 年 1 回の頻度で、業種ごとに地域内の関係者を集めて、事業者の取組に関する情報共有や課題解決に向けた議論を行う会議体。 2023 年度は観光専門部会として構成市町村観光協会等連携会議を開催している。 **＜構成市町村長会議＞** 年 1 回の頻度で、構成 14 市町村長が集まり、法人の活動や次年度予算、事業の方向性等についての議論を行っている。 **＜連絡会＞** 年 2 回の頻度で、地域内の交通、宿泊、観光事業者、行政など多種多様な関係者が集まり、当法人が調査したマーケティング結果を報告して、今後の地域のあるべき姿等について議論するほか、先進地域から専門家を招いての講演会を開催するなど、地域一体となって観光振興に取り組む会議体。

様式１

【実施体制図】

一般社団法人
Clan PEONY 津軽　法人体制図



２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

【区域設定の考え方】

1976（昭和 51）年から、マネジメントエリアを構成する地方公共団体及び観光協会、地域の交通事業者で「津軽広域観光圏協議会」を設置し、情報発信サイト「津軽なび」を通したエリア全体の観光に関する情報の一元的な発信や、旅行エージェント訪問による誘客促進を実施していた。DMO 設立を契機に同協議会を解散し、宿泊事業者や地場産業関係事業者を加え、同協議会のエリアをマネジメントエリアとして設定した。

また、観光資源の面からみても、ローカル鉄道２社がある当該地域は、移動も観光の一部として旅行客に訴えやすく、津軽塗やこぎん刺しなどの文化や歴史の面で共通する資源がある一方、各地域それぞれが独自色に富んだ特産品を有することから、共通のテーマの下、各自治体が独自の特徴を出して多様なコンテンツを旅行者に対し提示することができるため、マネジメントエリアの範囲として適切であると考える。

【観光客の実態等】

項目	2020（令和２）年度	2021（令和３）年度	2022（令和４）年度	2023（令和５）年度	2024（令和６）年度
観光入込客数（人）	6,967,130	6,826,124	8,066,932	9,335,928	9,686,450
延べ宿泊者数（人）	614,433 (2,908)	691,453 (2,655)	945,535 (15,936)	1,073,312 (58,804)	1,093,521 (86,310)

※（　）内の数値はうち訪日外国人旅行者に関する数値

2017 年の青森－天津（中国）便の就航および青森県・函館観光キャンペーン（アフターDC）により、2018 年度まで入込客数は回復傾向にあり、延べ宿泊者数も増加していた。特に中国・台湾からの訪日外国人旅行者の伸び率が高かった。（中国：2016 年 3,129 人→2017 年 27,054 人、台湾： 2016 年 5,875 人→2017 年 16,678 人）。

2019 年度末からは新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により観光の動きが低迷したが、2023 年 5 月の 5 類感染症への移行により、全国的に観光の動きが急速に回復した。

津軽地域では、2024 年度は観光入込客数が 2019 年度比 85.3%の回復にとどまった。一方で、延べ宿泊者数は 2019 年度比 102.6%とコロナ禍前を上回り、うち訪日外国人旅行者は 2019 年度比 141.6%と大幅な伸びを見せた。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

当法人のマネジメントエリアとなる津軽地域 14 市町村には多種多様な観光資源があり、当法人で整理・取りまとめしたうえで、ターゲット層のニーズに合わせ、個々の資源の活用や、資源間の周遊を促進する取組を戦略的に展開する。

〇観光・商業施設

市町村名	施設名	施設概要
弘前市	弘前公園（弘前城）	52 種約 2,600 本の桜が咲き誇る日本屈指の桜の名所。桜以外にも四季折々のまつりの会場となっている。 園内には、江戸時代以前より残存する現存 12 天守の 1 つ、国指定重要文化財・弘前城天守を構える。
黒石市	津軽伝承工芸館	津軽こけし館に隣接し、津軽塗や裂織（さきおり）など津軽の伝統的な文化を全国に発信する広域拠点施設。 敷地内には伝統工芸の製作工房が配置されており、職人たちの実演を見学できるほか、製作体験もできる。 また、津軽三味線の生演奏を聴ける伝承ホールや足湯も併設されている。

五所川原市	立佞武多の館	高さ約 23m、重さ約 19t の大型立佞武多 3 台を常時観覧できるほか、各パーツの制作現場を間近で見学できる「立佞武多制作所」や、金魚ねぷたや団扇の制作体験ができる「遊楽工房かわらひわ」も併設している。 最上階の展望ラウンジでは、岩木山、八甲田山、梵珠山、津軽平野の眺望を食事とともに楽しむことができる。
つがる市	高山稲荷神社	鎌倉～室町時代にかけて創建された神社で、五穀豊穣、海上安全、商売繁盛の神様としてご利益があるとされる。 高さ約 2m の朱色の鳥居やお稲荷様が無数に並んでいる光景は異世界のような不思議な空間を創出し、写真映えスポットとして人気。鳥居の奥にある高台からは全体を一望できる。
平川市	盛美園・盛美館	明治期に大石武学流 4 代宗匠・小幡亭樹が作庭した、国指定名勝の庭園。津軽地域に数多く見られる大石武学流の造園を代表する名園の 1 つ。 庭園を眺めるために建てられた「盛美館」は、上下に純和風と洋風仕立ての異なる様式が重なる、他に例がない建築様式の洋館であり、日本庭園と融和した独特の美しさを保ち、本州の最果てに咲いた明治文明開化の面影をしのばせている。
鰺ヶ沢町	海の駅わんど 鰺ヶ沢相撲館「舞の海ふるさと桟敷」	地元で獲れた新鮮な海産物や農産物、土産品販売のほか、お食事処や観光情報コーナー、無料休憩所も併設している。 2 階には鰺ヶ沢町出身で技のデパートと呼ばれた元小結・舞の海をはじめ、郷土出身力士の活躍や伝統、文化などを紹介している。
深浦町	黄金崎不老ふ死温泉	日本海に沈む夕陽を一望できる景勝地・黄金崎に建つ宿。「黄金崎」は夕暮れ時になると景色が全て黄金色に染まることに由来。日本海に沈む夕陽を一望できる波打ち際の露天風呂は、2023 年のじゃらん絶景日帰り温泉ランキング全国 1 位に選ばれている。
西目屋村	道の駅津軽白神 ビーチにしめや	世界自然遺産・白神山地の観光情報施設の機能のほか、西目屋村の自然の恵みを味わえる特産品を取り揃える農産物直売所や、白神山地の天然水で入れたコーヒーの販売所、津軽ダムカレーやクマ肉を使ったジビエ料理を出すレストランがあり、そば打ちやコーヒー焙煎体験ができる。 津軽ダムの湖面を走る水陸両用バスの発着地にもなっている。ビーチは砂浜ではなくブナの意味。
藤崎町	ふじさき食彩テラス	ふじりんご発祥の地・藤崎町の農家で生産された四季折々の野菜や果物、こだわり栽培の米や「ときわ養鶏ブランド」の商品など、産直ならではの新鮮でおいしい商品を販売する農産物直売所。 地元で採れた新鮮なりんごを丸ごと使用した大人気の「ふじさきまちのりんごあめ」も販売している。
大鰐町	大鰐温泉郷	大鰐温泉は開湯 800 年以上の歴史を持ち、津軽の奥座敷として古くから親しまれている。無色透明が特徴で洗い

		あがりがすべすべになり、神経痛やリウマチ性疾患などに効果がある。 大鰐の中心街を流れる平川の両岸に佇む温泉宿は、古き良き昭和の時代を彷彿とさせるノスタルジックな風情が漂う。
田舎館村	田舎館村埋蔵文化財センター	弥生時代の北限の水田跡で知られる国史跡・垂柳遺跡に関する出土品等が見学できる施設。高樋遺跡で発見された約 2,100 年前の水田跡・水路跡をそのまま化学処理した遺構が露出展示されている。 広さ約 140 ㎡の水田跡の上を直接歩ける。
板柳町	板柳町ふるさとセンター	世界各国のりんごを栽培する品種見本園、りんご資料館、りんご加工集出荷貯蔵施設など、生きているりんごの博物館として 1986（昭和 61）年に開設。 地場の陶芸「ばんりゅう焼き」やりんご菓子づくりを体験できる工芸館や農産物直売所、子ども連れでも楽しめる遊具付きの広場もあり、総ひばづくりのコテージやバーベキュー場も併設されている。
鶴田町	鶴の舞橋	岩木山の雄大な山影を湖面に美しく映す津軽富士見湖に架かる、全長 300m の日本一長い木造三連太鼓橋。 夜明けとともに浮かび上がる湖面の橋の姿や、夕陽に色づく湖と鶴の舞橋は絶景で、季節の移り変わりと共に多くの観光客たちの目を楽しませている。
中泊町	宮越家 離れ／庭園	旧家・宮越家に 1920（大正 9）年に建築された瀟洒な離れ「詩夢庵（しむあん）」は、ステンドグラス作家・小川三知の最高傑作と評される 3 ヶ所の窓の装飾など、贅が凝らされた建具や調度が特徴。 詩夢庵を囲むように造成された「静川園（せいせんえん）」は、枯山水・池泉庭園を融合した造りで、四季折々の景観を楽しめる。

○自然

市町村名	施設名	施設概要
弘前市	嶽・湯段・百沢温泉	市の西側に位置する岩木山周辺の温泉。10 ヶ所の源泉から硫黄泉、炭酸水素泉、塩化物泉など、様々な泉質が楽しめる。
黒石市	中野もみじ山	小嵐山と称される中野もみじ山では、燃えるような紅葉、滝や渓流が同時に楽しめ、県内外から多くの観光客が訪れる。境内には樹齢 600 年を超える大杉なども生育し、巨木としても高く評価されている。夜間はライトアップされ、照らされたもみじは、鮮やかで幻想的。
五所川原市	芦野公園	芦野湖を中心にした広大な園地に約 1,500 本の桜が植えられ、日本のさくら名所 100 選に選ばれている。園内に津軽鉄道の芦野公園駅があり、桜のトンネルを鉄道が走り抜ける様を見ることができる。 作家・太宰治が少年の頃よく遊んだ場所として知られており、太宰に関連する石碑や銅像などがある。
つがる市	ベンセ湿原	ニッコウキスゲの群生地で、日本自然百選に指定されている。見ごろは、5 月下旬から 6 月中旬ころまで。ニッコウキスゲが終わると野花菖蒲が咲き、黄色から紫色へと変わり、訪れる人を楽しませてくれる。

平川市	志賀坊森林公園	豊かな穀倉地帯である広大な津軽平野が一望でき、ここから眺める岩木山の姿は津軽一ともいわれている。遊歩道を少し歩くとカタクリの花もあり、ハイキングやピクニックには絶好の場所である。
鰺ヶ沢町	くろくまの滝	白神山地に源流をもつ赤石川の支流「滝ノ沢」にある、落差 85m、幅 15m の青森県内最大級の滝。 観音様が合掌しているように見える神々しい姿から、古くから信仰の場とされる。 日本の滝百選に選ばれた名瀑。
深浦町	十二湖の森・青池	世界自然遺産・白神山地の広大なブナの森に 33 の天然湖沼が点在する十二湖。十二湖の森は、青森県内で初めて医学的な証拠に裏付けられた「癒し」効果が認められた森林セラピー基地となっている。 鮮やかなコバルトブルーに輝く青池は、東北の“絶景ブルー”として有名な青森有数のパワースポット。周囲の樹々を鏡のように映し出る水面をウッドデッキの遊歩道から覗くことができる。
西目屋村	暗門の滝	世界自然遺産・白神山地の名勝で、上流側から高さ 42m の第 1 の滝、その 200m 下流に高さ 37m の第 2 の滝、さらに 160m 下流に高さ 26m の第 3 の滝で構成されている。滝の一帯は険しい岩壁に囲まれ、ブナや松などの老樹が生い茂っている。 渓流沿いの歩道を登る暗門渓谷ルートが整備されている。
藤崎町	白鳥ふれあい広場	一級河川・平川の川沿いにある広場で、白鳥の飛来地として有名。雪を頂く岩木山を背景に、毎年 12 月～3 月末頃までに飛来する約 300 羽の白鳥を間近に観察することができる。
大鰐町	石の塔	大鰐町早瀬野地区国有保護林内の山頂に「石の塔」という高さ 24m、周囲 74m の自然現出した一塊の巨石がある。石の塔登山口のシンボル・赤い鳥居から 40 分程度で登頂できる。
鶴田町	富士見湖パーク	津軽富士見湖畔に隣接する 12.4 haの広さを有する公園。園内には日本初の 360 度ループ滑り台やピクニック広場などもあり、憩いの場として親しまれている。
中泊町	竜泊（たつどまり）ライン	国道 339 号線の小泊から竜飛崎までの通称竜泊ライン。風向明媚で急峻なワインディングロード。

〇文化

市町村名	施設名	施設概要
弘前市	禅林街	弘前藩 2 代目藩主・津軽信牧（のぶひら）が、津軽氏の菩提寺である国指定重要文化財・大平山長勝寺を正面に据え、弘前城の西南の守りとして 33 の曹洞宗寺院を並べた寺院街。 同じ宗派によって造られた寺院街は全国的にも珍しく、「長勝寺構（ちょうしょうじがまえ）」として国の史跡に指定されている。
黒石市	大川原の火流し	精霊流しが起源とし、約 600 年の歴史があるとされる大川原の伝統行事。わら舟の帆柱に火をつけ、中野川を若者たちが進む。現在は豊凶を占う行事として毎年開催。

様式１

五所川原市	旧平山家住宅	18 世紀後半の規模・形式をほぼ原形のまま保たれており、中には当家ゆかりの品々も展示されている。上層農民が生活した当時の姿を保つ極めて貴重な史料とされ、主屋と表門は国指定重要文化財に指定されている。
つがる市	縄文住居展示資料館 カルコ	1887（明治 20）年に亀ヶ岡遺跡から出土した国指定重要文化財・遮光器土偶のレプリカをはじめ、市内や県内各遺跡からの出土品を展示している。 復元された縄文時代晩期の大型竪穴建物では縄文時代の人々のくらしを見ることができるほか、縄文人そっくりな人形が来館者に古代の言葉で語りかける。
平川市	猿賀神社	桓武・平城・嵯峨の三天皇に仕えた坂上田村麻呂が 793 年に建立したと伝えられ、古くから農漁業、交通、眼の守護神として尊信されている。 また、津軽神楽奉奏、県下獅子踊大会等様々な祭事や神賑行事を実施する「猿賀神社十五夜大祭」や柳の大枝をたたきつけて今年の豊凶や天候を占う神事「猿賀神社七日堂大祭」も開催される。
鰺ヶ沢町	北前船	弘前藩の御要港として栄えた鰺ヶ沢。西回り航路の寄港地として賑わい、経済、文化等の恩恵がもたらされた。白八幡宮に奉納された船絵馬が当時の湊の様子を伝える。2017（平成 29）年に「日本遺産」認定。
深浦町	春光山円覚寺	聖徳太子が作ったとされている御本尊「十一面観音」が安置されている津軽を代表する古刹。他にも薬師堂内厨子は国の重要文化財とれている。北前船寄港地だったことを伝える数々の寺宝が残されており、日本遺産認定に大きく寄与している。
西目屋村	目屋マタギ	白神山地の麓で、1,000 年以上前から狩猟を糧に生活してきたマタギ。
藤崎町	常盤ふるさと資料館 あすか	地元出身の版画家、高木志朗氏と円平仁氏の作品展示や、企画展等を開催している。
大鰐町	温泉祈祷式	開催場所は大鰐町大湯会館。丑の上に着座した観音像を祀り、温泉を祈祷する。
田舎館村	田舎館村埋蔵文化財センター	弥生時代の水田跡の上に建てられた施設。水田跡の上を直接歩ける。出土された土器などの展示も行っている。
板柳町	板柳町郷土資料館	昭和 40 年代、りんご景気により住宅新築が相次いだことに伴い、貴重な文化財が廃棄されていることを危惧し、板柳町文化財研究会有志らが町内から収集した資料を収蔵・展示。また、町指定文化財の「旧役場庁舎正面玄関」を併設、明治時代の洋風建築の姿を今に伝える。
鶴田町	弥生画	五穀豊穣祈願のため、額面に穀物を貼り付け絵画を作成し、地域の神社へ奉納する。全国で唯一の習わし。
中泊町	津軽伝統　金多豆蔵人形劇場	毎月第 1 土曜日に、津軽鉄道津軽中里駅構内にある劇場で開催。全編津軽弁で繰り広げる劇は、伝統を守りながらも世相と風刺を取り入れる、懐の深い劇となっている。

様式１

○イベント、祭り

市町村名	施設名	施設概要
弘前市	弘前さくらまつり	染井吉野を始め、シダレザクラ、八重桜など 52 種約 2,600 本の桜が園内を染め上げる祭り。毎年 4 月中旬～5 月初めまで開催される。
黒石市	黒石よされ	日本三大流し踊りのひとつである「黒石よされ」。連日 2,000 人を超える踊り子たちによる「流し踊り」もさることながら、時折円を描く「廻り踊り」は観客を巻き込んでの乱舞となる。
五所川原市	五所川原立佞武多	高さ約 23m、重さ約 19t の巨大な大型立佞武多 3 台をはじめ、各団体の立佞武多やねぷたが市内を練り歩く祭り。ビルの谷間から顔を出す大型立佞武多の姿は圧巻。
つがる市	つがる市馬市まつり	東北三大馬市の一つ「馬っこ市」に代わり、1975（昭和 50）年から行われるつがる市最大の祭。8 月下旬に馬ねぶたを曳き市内を練り歩く。最終日には、馬ねぶたへ点火し、新田開発に尽くした農耕馬の霊を昇天させる「新田火まつり」を行い、クライマックスの花火があがる。
平川市	平川ねぷたまつり	約 30 台のねぷたが出陣する中、高さ 12m の「世界一の扇ねぷた」が最後尾を務める。華やかな踊りも加わり、夏の風物詩を満喫できる。
鰺ヶ沢町	イカのカーテンまつり	イカの生干しを炭火で焼く鰺ヶ沢名物「焼きイカ」は、半世紀不動の人気を誇る。その生干し風景は「イカのカーテン」と呼ばれ、町の風物詩である。まつりでは、来場者が一斉にイカを干し、100m にも及ぶイカのカーテンをつくる。食もステージも充実のイベント。
深浦町	日本一の大イチョウライトアップ ビッグイエロー	樹齢 1,000 年以上、高さ約 31m、幹周約 22m の、日本一の大イチョウで知られる青森・深浦の国指定天然記念物「北金ヶ沢（きたかねがさわ）のイチョウ」のライトアップイベント。
西目屋村	乳穂ヶ滝氷祭	毎年 2 月第 3 日曜日に開催され、滝の結氷具合で作物の豊凶を占う祭り。
藤崎町	ふじさき秋まつり	りんごと米の収穫感謝祭。高さ 2m のジャンボおにぎりを製作し、来場者に無料で振る舞われる。
大鰐町	大鰐温泉つつじまつり	青森県立自然公園「茶臼山公園」にて、公園全体に美しく咲き誇る約 15,000 本のつつじが見られる。毎年 5 月中旬に開催される。
田舎館村	田んぼアート	異なる色の稲を絵の具代わりに、田んぼを巨大なキャンバスに見立てて絵を描く。毎年 2 つの会場で違った絵柄を楽しめる。
板柳町	りんご灯まつり	りんご灯まつりは豊作を祈願するまつりで、メインとなる「りんご山笠」の提灯は、たわわに実るりんごに見立てており、力強い大太鼓のリズムとともに「ノレサ！ソレサ！」の掛け声が真夏の夜空に響きわたる。
鶴田町	鶴の舞橋桜まつり	毎年ゴールデンウィーク期間中に開催。富士見湖パーク内に咲く約 2,000 本の桜が楽しめる。 期間中は「鶴の舞橋全国カラオケ大会」などのイベントも開催され多くの観光客が訪れる。
中泊町	なかどまりまつり	中里・小泊の 2 つの地域で開催。なにもささ踊りや海上相撲など各地域の特徴を活かした催しを行っている。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

市町村名	施設数	うち収容可能人数100人以上施設数	部屋数	最大収容可能人数
弘前市	103施設	14施設	2,253室	4,591人
黒石市	18施設	0施設	197室	463人
五所川原市	4施設	3施設	370室	455人
つがる市	4施設	0施設	83室	284人
平川市	2施設	1施設	85室	411人
鰺ヶ沢町	3施設	2施設	258室	634人
深浦町	2施設	2施設	95室	472人
西目屋村	3施設	0施設	63室	213人
藤崎町	0施設	0施設	0室	0人
大鰐町	13施設	2施設	340室	1,000人
田舎館村	0施設	0施設	0室	0人
板柳町	1施設	0施設	6室	48人
鶴田町	2施設	0施設	27室	109人
中泊町	4施設	0施設	42室	128人
合計	**108施設**	**24施設**	**3,819室**	**8,808人**

【利便性：区域までの交通、域内交通】

※マネジメントエリア内における公共交通機関のハブとなっているのが弘前駅であるため、弘前駅を中心に記載する。

＜飛行機＞

東京（羽田空港）～青森空港　　：約1時間15分
大阪（伊丹空港）～青森空港　　：約1時間30分
名古屋（小牧空港）～青森空港　　：約1時間20分
札幌（新千歳空港）～青森空港　　：約50分
神戸（神戸空港）～青森空港　　：約1時間40分
ソウル（仁川国際空港）～青森空港　：約2時間20分（週3便）
中国（天津浜海国際空港）～青森空港：※現在運休中
台湾（台湾桃園国際空港）～青森空港：※現在運休中。10月再開予定

※空港から地域への所要時間（空港連絡バス）

青森空港　　～弘前駅前　約55分

＜新幹線＞

東京駅～新青森駅　　：約3時間30分、奥津軽いまべつ駅：約3時間40分
仙台駅～新青森駅　　：約1時間40分、奥津軽いまべつ駅：約2時間
盛岡駅～新青森駅　　：約1時間、　　奥津軽いまべつ駅：約1時間20分
新函館北斗駅～新青森駅：約1時間、　　奥津軽いまべつ駅：約50分

※新幹線からの接続

新青森駅～弘前駅　　：約40分
新青森駅～五所川原駅：約1時間10分

＜高速バス＞

東京～弘前：約10時間30分
仙台～弘前：約4時間50分
盛岡～弘前：約2時間50分

＜自動車・レンタカー＞

仙台宮城IC～大鰐弘前IC（東北自動車道）：約3時間50分（約350km）

盛岡 IC　　～大鰐弘前 IC（東北自動車道）：約 2 時間（約 165km）

＜域内交通（電車・バス）＞

ＪＲ奥羽本線・五能線のほかに弘南鉄道や津軽鉄道といったローカル線や各地のバス事業者が地域内の主な二次交通を担っている。

【外国人観光客への対応】

14 市町村の観光情報を集約している法人ホームページにおいては英語及び繁体字に対応しているほか、域内各地において、それぞれ多言語対応を行っている。例えば、弘前市においては、多言語でのパンフレット（英・韓・簡・繁・タイの 5 言語）作成、ホームページ（英・韓・簡・繁の 4 言語）を作成している。

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	地域への経済波及効果を検証するため。	観光客満足度調査により収集。
延べ宿泊者数	誘客施策の効果や顧客層等を把握するため。	各市町村から収集。
来訪者満足度	受入環境整備及び旅行商品の効果や顧客のニーズを把握するため。	観光客満足度調査により収集。
リピーター率	顧客満足度向上のための施策の効果や顧客層を把握するため。	観光客満足度調査により収集。
ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	法人ホームページを活用して実施。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	住民観光意識調査により収集。

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

当地域では人口減少率が 1%／年を超えており、2015 年から 2018 年にかけて 2 万人も減っている。国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」によると、2015 年の人口を 100%としたとき、2045 年には地域全体で 59.4%しか残らず、14 市町村の半分にあたる 7 市町村において 50%以上、そのうち 4 町村は 60%以上人口が減少することが見込まれている。

人口が減少していく中で地域を維持していくためには交流人口の拡大や来訪者の域内消費の促進に積極的に取り組み、外貨や移住者を獲得する必要があるが、この外貨と移住者の獲得の両方に寄与すると目されるのが「観光」である。内閣官房「まち・ひと・しごと創生本部」においても、地域活性化・地方創生の柱として観光を掲げており、観光が地域内の幅広い産業に及ぼす経済波及効果について算出していることからも観光が地域に及ぼす影響の高さが伺える。当法人としては、当地域全体を「津軽」という 1 地域として、地域全体の周遊を促し、滞在促進・消費拡大につなげたいと考えている。

その一方で、2020 年にあおもり創生パートナーズ（株）が発表した市町村別の観光特化係数（市町村の観光への依存度）をみると、当地域内では市町村によっては観光産業への依存度が高い市町村も

あれば、極端に低い市町村もあり、市町村職員や民間事業者の観光に対する取組の意識が市町村により大きく異なっている。
　したがって、当法人は地域連携ＤＭＯとして、地域内の多様な関係者の参画を求めつつ、参画した関係者たちの意識や知識のレベルを底上げしながら、地域資源の魅力的な活用を、データの収集・分析により客観的な角度から推進し、10 年・20 年後も旅行先として選ばれる魅力的な地域となれるような観光地域づくりを実施する。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** **・自地域で積極的に活用できる強みは何か？** ・地域住民が津軽弁という国内屈指の難解な方言を話す。 ・域内各地でねぷた/ねぶたという特徴的な地域伝統行事がある。 ・山海の幸や津軽平野で採れる農産物など、豊富な食資源を提供できるほか、収穫体験など観光資源化もできる。 ・北国独特の食文化や風習が他地域の人々にとって新鮮に感じられる。 ・弘南鉄道と津軽鉄道というローカル鉄道が地域内を走っており、鉄道ファンに人気の旧型車両を保有している。 ・世界自然遺産「白神山地」を始め、森林資源や海洋資源など豊かな自然がある。 ・世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」や日本遺産「北前船寄港地」を始め、城址や寺社仏閣、モダニズム建築など、歴史的文化資源が各地に残存する。 ・山里文化やマタギ文化がある。 ・温泉資源が豊富で公衆浴場が多く、地域住民に朝風呂文化がある。	**弱み（Weaknesses）** **・自地域で改善を必要とする弱みは何か？** ・季節等によって観光需要の差が激しい。（特に夜間や冬季） ・東京からの距離が長く、移動に時間と費用がかかる。 ・人口減少や少子高齢化により観光関連業界の担い手（プレーヤー、従業員）が不足している。 ・観光資源間を結ぶ二次交通が不便なため、観光地を周遊し案内することが難しい。（便数、ユニバーサルデザインなど） ・インバウンドの受入体制が整備しきれていない。 ・飲食店や宿泊施設に小規模施設が多く、一度に多くの人数を受け入れられない。 ・観光施設や私鉄の鉄道設備の老朽化が進んでいるが、修繕する費用を確保できない。 ・観光資源が少ない自治体もあり、観光に対する積極性や理解度に差がある。 ・商品の価格が低いため、収入が少ない。 ・情報発信が得意ではない。
外部環境	**機会（Opportunity）** **・自地域にとって追い風となる要素は何か？** ・新型コロナウイルス感染症の５類感染症への移行により、世界的に観光需要が急激に高まっている。 ・個人旅行の増加により大規模施設でなくても観光客に利用されるようになった。 ・青森と台湾、韓国を結ぶ国際定期便の運航が再開する。 ・台中市、台南市との友好都市交流の深化などにより台湾人旅行者が増加している。	**脅威（Threat）** **・自地域にとって逆風となる要素は何か？** ・物価高騰により観光施設等の運営費用が増大している。 ・旅行消費単価の高いインバウンドを多く取り込む大都市に比べて観光関連業界の給与水準が低いため、担い手（プレイヤー、従業員）が大都市に流れている。 ・世界的な気候変動により農林水産資源の維持保全に悪影響が生じている。 ・競合する観光地で観光・宿泊施設やインバウンド受入環境への投資が進んでいる。

	・円安によりインバウンドの日本への旅行需要が高まっている。 ・インバウンドの脱ゴールデンルート傾向により地方に訪れる観光客が増加する。 ・青森港に寄港するクルーズ船の増加により、乗客が観光に訪れる。 ・弘前城石垣改修工事の終了に伴う弘前城曳家の実施。 ・北海道新幹線の札幌延伸。（2030 年）	・旅行形態の変化により団体客が減少しており、大規模宿泊施設で宿泊者を安定して確保しづらくなった。 ・盛岡市がニューヨーク・タイムズ紙の「2023 年に行くべき 52 ヶ所」の第 2 位に選ばれたことにより、インバウンドが盛岡市に流れる。 ・秋田県がＪＲ東日本の重点販売地域に選定されたことによる観光キャンペーンの実施（2024 年）

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット　※2025 年度事業において見直し予定

〇第１ターゲット層（新規枠）
20～30 代　関西圏（直行便のある大阪・神戸）恋人・子どもがいない夫婦　2 泊 3 日

〇選定の理由
※４．戦略（１）・（２）の分析を踏まえたターゲット層の設定であることを説明すること。
津軽地域に来訪する来訪者の中で、現在 20 代男性 1 人旅が増えており、当地域を訪れた男性がパートナーと一緒に再訪してもらうことを狙う。大都市圏から遠く、二次交通が弱い当地域において、青森空港から直行便のある関西（伊丹空港・神戸空港）および名古屋（小牧空港）は魅力的な市場であるが誘客が進んでおらず、積極的な誘客に取り組みたいと考えているため。

〇取組方針
プロモーションの展開先として、2020 年 3 月に就航したものの、コロナウイルス感染症感染拡大の影響で利活用が進んでいない青森－神戸便がある神戸を中心に、直行便のある大阪（伊丹空港）や名古屋（小牧空港）を想定。関西から距離があるため、格安ではないが割安感があり、おしゃれな浴衣を着て写真を撮ってもらい、Instagram で発信してもらうというようなカジュアルに楽しめる滞在を提供する。

〇第２ターゲット層（既存枠）
50～60 代　ミドル～シニア層夫婦　2 泊 3 日～1 週間程度のゆったりとした滞在

〇選定の理由
現状の主要な来訪者層は 50～60 代の夫婦 2 人旅である。既に来ていただいているお客様については、リピーターとして来ていただきつつ、長い時間滞在していただけるよう、新たな楽しみ方を提案する。また、コロナウイルスの影響により旅行中も気を遣う中で、息抜きにゆったりと過ごしていただきたいため。

〇取組方針
この層は子どもが成人したり、定年退職したりと時間に余裕が出てくる世代であり、金銭的にも余裕がある層であることから 2 泊 3 日～1 週間程度の中期滞在を提案し、ゆったりと過ごしていただくとともに、特別感のある文化体験（主に工芸）や上質で地域性のあるお土産や記念品を提供する。

〇第３ターゲット層（インバウンド・アジア枠）
台湾・香港　季節感を求めて来る旅行者　2 泊 3 日～1 週間程度の滞在

〇選定の理由
　当地域に来訪するインバウンドは台湾、韓国、中国、香港、タイなどが多い。この中で中国・韓国は直行便が無期限運休となったり、対日感情が悪化したりと、安定した誘客が期待できない一方で、台湾は 2019 年 7 月に定期便が新規就航していること、香港についても直近 3 年で 3 倍を超える伸び率を記録していることから、さらなる成長が期待できるため。

〇取組方針
　台湾・香港は日本よりも南に位置し、当地域に来訪する旅行者たちは季節感を求めて来訪している。これらの来訪者が多く来訪するのは 10 月（紅葉）・4 月（桜）・2 月（雪）の順であり、特に国内旅行者も含めた全体を見たときに閑散期となる２月に、夏と同じくらいの人数が来ているのは、当地域の観光需要の底上げにも大きく寄与するため、季節感があり、なおかつ日本及び津軽を感じられるコンテンツの提供を目指したい。

〇第４ターゲット層（インバウンド・欧米豪枠）
　オーストラリア・アメリカ　アドベンチャーツーリズム層　1 週間以上の長期滞在

〇選定の理由
　当地域には、スキー・スノーボードの日本代表選手の強化拠点に選ばれ、インバウンドが多く訪れている青森スプリング・スキーリゾート（鰺ヶ沢町）をはじめ、国民スポーツ大会や国際大会の会場としても使われた実績のある大鰐温泉スキー場（大鰐町）、地元住民に親しまれている岩木山百沢スキー場（弘前市）など、レベルや目的に応じた楽しみ方を提供できるスキー場がある。
　北京オリンピックを前に、中国のスキー人口が爆発的に増え、それまでニセコにいたオーストラリアのスキーヤーが別の穴場を探してニセコから移動しており、当地域と隣接する八甲田や八幡平エリアに南下してきていることを勘案すると、当地域への誘客も積極的に行う必要があるため、オーストラリア向けのプロモーションは必要である。
　また、アメリカについては県内に米軍基地があることや欧米豪市場の中で一番多く当地域を訪れている国であることから、欧米豪市場開拓に向け、足がかりとしやすいため。

〇取組方針
　オーストラリアについては、冬季のスキー・スノーボードをメインとした誘客に加え、ナイトライフの楽しみ方や、グリーンシーズンの魅力も伝えられるよう、コンテンツを整理し、多言語整備したうえでプロモーションを行う。
　アメリカについては足がかりとしやすいものの、三沢基地からくる旅行者については、「近いから来る」という人が多いと予想され、来訪者それぞれの興味関心については、絞り込みにくいため、オーストラリアと併せて実施できるよう、アドベンチャーツーリズムに興味関心のある層を狙いたい。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	「津軽時間旅行」 ～　岩木山の恵みに触れる旅づくり　～
②コンセプトの考え方	この岩木山を中心とした津軽地域には、縄文時代を始めとした、各時代の歴史、文化、暮らしがあちらこちらに秘められているものの、ほとんどの住民がそのことに気づいていない。 　ただ、この秘められた歴史、文化、暮らしは、知らず知らずのうちに今を生きる私たちの生活の基礎となり、津軽に住む人々の「アイデンティティ」、「誇り」となっている。 　この歴史に裏打ちされた文化や営みこそが、津軽地域ならではの魅力、すなわち「宝」であることから、当法人が改めて各地域に深く入り込んで、地

	域の皆さんと一緒に「宝」を探し、磨くことで、岩木山に育まれた 14 の物語を生み出していく。 　こうして生まれた物語を、多くの人々に体験してもらうことで、喜びや楽しみを共有し、地域に元気を与えていくことに繋げていきたい。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	年 2 回の連絡会での意見照会、年 3 回の構成市町村課長・担当者会議及び理事会や年に 1 回の社員総会での審議という形での戦略の共有を検討している。 また、地域住民の理解・参画促進に向けて、【地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組】欄にも記載した勉強会やワークショップにおいて、戦略を推進するために地域住民がどのような役割を担えるかなどの議論を交わすことで、多様な関係者の戦略への理解を深めることを検討している。
	●構成市町村課長・担当者会議 年に 3 回の頻度で、構成市町村の担当者が集まり、法人業務の進捗状況を報告しつつ今後の進め方について意見交換を行っているほか、各市町村のイベント情報等について情報共有する機会を設けている。 ●理事会 年 3 回の頻度で、5 市 2 町の首長及び 5 市の観光協会長が集まり、定時社員総会に諮る重要案件について事前に意見交換を行っている。 ※2025 年下半期に宿泊事業者及び交通事業者を理事として追加予定 ●定時社員総会 年 1 回の頻度で、14 市町村長が集まり、法人の予算決算、重要案件について報告し意見交換及び議決を行っている。 ●連絡会 年 2 回の頻度で、エリア内の交通、宿泊、体験事業者等多種多様な関係者が集まり、当法人が調査したマーケティング結果を報告して、今後の地域のあるべき姿等について議論するほか、先進地域から専門家を招いての講演会を開催し、地域一体となって観光振興に取り組むべく努めている。 ●メールマガジンの配信 14 市町村や地域事業者に対して、DMO の取り組みやマーケティング分析事例を紹介するメールマガジンを隔月で配信している。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	観光客に対し観光満足度調査を実施し、とりまとめた意見を当法人が主催する連絡会にてフィードバックし、地域の多様な関係者と意見交換を行ったうえで改善策を検討している。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	各観光関係の協議会や市町村が個別で発信している情報について、14 市町村の情報を一元的に発信している法人ホームページへの情報集約を行う。

	また、各市町村等で個別に行っている、海外や首都圏プロモーションなど、スケールメリットが見込まれるものについては、JNTO や（一社）東北観光推進機構、各市町村と連携して実施する。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2026（Ｒ８）年度
●旅行消費額（百万円）	目標		54,946	59,082	63,368	67,812	72,420
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	50,960	58,664	59,375			
		(-)	(-)	(-)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	1,095	1,095	1,095	1,128	1,162	1,196
		(65.9)	(65.9)	(65.9)	(67.9)	(70.0)	(72.1)
	実績	945	1,073	1,093			
		(15.9)	(58.8)	(86.3)			
●来訪者満足度（%）	目標		95	95	95	95	95
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	98.2	98.3	97.3			
		(-)	(-)	(-)			
●リピーター率（%）	目標	67.2	68.2	75	75	75	75
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	69.7	78.2	66.3			
		(-)	(-)	(-)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
当法人が実施している津軽地域の観光に関する各種マーケティング調査結果をもとに現状の数値について把握したうえで、目標数値について設定した。

【設定にあたっての考え方】
●旅行消費額
2022 年度実績から当法人独自の調査に基づく算出方法を採用した。
旅行消費額は（県内日帰り客観光入込客数÷青森県平均訪問地点数×県内日帰り客単価）＋（県外日帰り客観光入込客数÷青森県平均訪問地点数×県外日帰り客単価）＋（県内宿泊客観光入込客数÷青森県平均訪問地点数×県内宿泊客単価）＋（県外宿泊客観光入込客数÷青森県平均訪問地点数×県外宿泊客単価）で算出している。
※客単価は当法人独自の調査に基づき算出。青森県平均訪問地点数は共通基準による観光入込客統計より引用。
2024 年度の目標値は観光入込客数及び延べ宿泊者数が 2019 年度並みに回復した場合の 2023 年度平均訪問地点数及び客単価を用いて算出した値で設定。2025 年度以降は 2024 年度目標から観光入込客数及び延べ宿泊者数をそれぞれ年 3%ずつ増加させた場合の値に設定している。
●延べ宿泊者数
2024 年度目標はコロナ禍前の 2019 年並みの値で設定し、2025 年度以降の目標は、2024 年度目標から年 3%ずつ増加させた値に設定している。

●来訪者満足度
　2020 年度から当法人独自の調査に基づく算出方法を採用し、2022 年度から集計方法を変更。毎年度 95%以上を目標として設定している。
●リピーター率
　2020 年度から当法人独自の調査に基づく算出方法を採用し、毎年度 75%以上を目標として設定している。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●津軽地域を魅力的な観光地だと感じている住民の割合（%）	目標	70	71	85	85	85	85
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	72	80	76.1			
		(-)	(-)	(-)			
●地域に住み続けたいと思っている住民の割合（%）	目標	80.6	81.6	80	80	80	80
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	77.3	74.9	78.2			
		(-)	(-)	(-)			
●ワンストップ窓口で予約可能な連携体験事業者数（事業者）	目標	13	18	36	41	46	51
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	18	31	36			
		(-)	(-)	(-)			
●ワンストップ窓口での売上（万円）	目標	44	630	350	420	490	560
		(4)	(63)	(17)	(21)	(24)	(28)
	実績	82	280	425			
		(1.5)	(8.1)	(24)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
　当法人が実施している津軽地域の観光に関する各種マーケティング調査結果をもとに現状の数値について把握したうえで、目標数値について設定している。

【設定にあたっての考え方】
●津軽地域を魅力的な観光地だと感じている住民の割合
　2021 年から当法人独自の調査に基づく算出方法を採用し、毎年度 85%以上を目標として設定している。
●地域に住み続けたいと思っている住民の割合
　2021 年から当法人独自の調査に基づく算出方法を採用し、毎年度 80%以上を目標として設定している。
●ワンストップ窓口で予約可能な連携体験事業者数
　連携する事業者を毎年度 5 事業者ずつ増やすことを目標として設定している。

●ワンストップ窓口での売上
　2023 年度実績から毎年度 70 万円ずつ増加することを目標として設定している。

様式１

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４）年度	53,690,827（円）	【市町村からの負担金】 （うち地方創生交付金充当額 【観光庁からの補助金】 【地域財団からの補助金】 【事業収益】 【雑収入】	38,200,000 13,560,818） 9,993,432 2,000,000 3,246,111 251,284（円）
2023（Ｒ５）年度	76,327,893（円）	【市町村からの負担金】 （うちデジ田交付金充当額 【観光庁からの補助金】 【地域財団からの補助金】 【事業収益】 【受託事業収益】 【雑収益】	50,720,000 19,126,075） 15,154,606 1,500,000 3,640,532 4,603,500 709,255（円）
2024（Ｒ６）年度	59,557,990（円）	【市町村からの負担金】 （うちデジ田交付金充当額 【観光庁からの補助金】 【地域財団からの補助金】 【事業収益】 【受託事業収益】 【雑収益】	44,845,000 15,131,616） 5,399,000 1,541,000 4,048,997 3,601,000 122,993（円）
2025（Ｒ７）年度	47,084,000（円）	【市町村からの負担金】 （うちデジ田交付金充当額 【地域財団からの補助金】 【事業収益】	44,844,000 20,870,000） 2,000,000 240,000（円）
2026（Ｒ８）年度	64,108,000（円）	【市町村からの負担金】 （うちデジ田交付金充当額 【地域財団からの補助金】 【事業収益】	57,708,000 23,995,000） 1,500,000 4,900,000（円）
2027（Ｒ９）年度	35,600,000（円）	【市町村からの負担金】 【地域財団からの補助金】 【事業収益】	28,000,000 2,000,000 5,600,000（円）

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４）年度	58,502,834（円）	【観光開発プロモーション事業】 【地域人財育成事業】 【マーケティング事業】 【実施事業共通経費】 【収益事業経費】 【法人管理費】	31,387,936 9,433,480 3,681,476 2,252,991 4,607,155 7,139,796（円）
2023（Ｒ５）年度	67,174,292（円）	【観光開発プロモーション事業】 【地域人財育成事業】 【マーケティング事業】	48,033,934 5,604,920 1,148,455

		【実施事業共通】 【収益事業等会計】 【法人管理費】	2,703,598 4,332,870 5,350,515（円）
2024（Ｒ６） 年度	51,964,140（円）	【観光開発プロモーション事業】 【地域人財育成事業】 【マーケティング事業】 【実施事業共通】 【収益事業等会計】 【法人管理費】	29,601,130 7,318,495 5,290,103 2,602,030 4,305,832 2,846,550（円）
2025（Ｒ７） 年度	47,084,000（円）	【マーケティング事業】 【受入環境整備事業】 【観光コンテンツ等開発・販売事業】 【観光プロモーション事業】 【法人管理費】	2,676,000 6,330,000 12,850,000 18,508,000 6,720,000（円）
2026（Ｒ８） 年度	64,108,000（円）	【マーケティング事業】 【受入環境整備事業】 【観光コンテンツ等開発・販売事業】 【観光プロモーション事業】 【法人管理費】	9,281,000 7,200,000 29,127,000 12,500,000 6,000,000（円）
2027（Ｒ９） 年度	35,600,000（円）	【マーケティング事業】 【受入環境整備事業】 【観光コンテンツ等開発・販売事業】 【観光プロモーション事業】 【法人管理費】	2,500,000 5,000,000 15,000,000 7,500,000 5,600,000（円）

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

当法人がスケールメリットを生かして域内の観光コンテンツを集約し、ワンストップで着地型旅行商品販売などの販売促進を行うことによって、事業者の売り上げを増やす後押しをするとともに、販売額の 8%を手数料として得ることによって自主財源を確保する。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

※設定対象区域の都道府県及び市町村が、本法人を当該都道府県・市町村における観光地域づくり法人として認める旨を含む意見を記入すること。

青森県弘前市、黒石市、五所川原市、つがる市、平川市、鰺ヶ沢町、深浦町、西目屋村、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町、鶴田町、中泊町は、（一社）Clan PEONY 津軽を当該市町村における地域連携 DMO として登録したいのでともに申請する。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

（例）エリアが重複する●●ＤＭＯとは、月に一度の連絡会を行い、各取組の意見交換を行っている。

【区域が重複する背景】

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】
※重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	齋藤　翔太
担当部署名（役職）	一般社団法人 Clan PEONY 津軽　スタッフ
郵便番号	036-8356
所在地	青森県弘前市大字下白銀町 2 番地 1
電話番号（直通）	0172-88-6090
ＦＡＸ番号	0172-88-6091
Ｅ－ｍａｉｌ	cpt.shotasaito@gmail.com

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	青森県弘前市
担当者氏名	福士　太陽
担当部署名（役職）	観光部　国際広域観光課　主事
郵便番号	036-8551
所在地	青森県弘前市大字上白銀町 1 番地 1
電話番号（直通）	0172-40-7017
ＦＡＸ番号	0172-38-5867
Ｅ－ｍａｉｌ	tai-fukushi@city.hirosaki.lg.jp

都道府県･市町村名	青森県黒石市
担当者氏名	前田　秋子
担当部署名（役職）	商工観光部　観光課　主任主事
郵便番号	036-0396
所在地	青森県黒石市大字市ノ町 11 番地 1
電話番号（直通）	0172-52-2111（内線 646）

ＦＡＸ番号	0172-53-1839
Ｅ－ｍａｉｌ	kankoushinkou@city.kuroishi.aomori.jp

都道府県･市町村名	青森県五所川原市
担当者氏名	葛西　雄也
担当部署名（役職）	経済部　商工観光課　主事
郵便番号	037-8686
所在地	青森県五所川原市字布屋町 41 番地 1
電話番号（直通）	0173-35-2111（内線 2579）
ＦＡＸ番号	0173-39-1093
Ｅ－ｍａｉｌ	y-kasai@city.goshogawara.lg.jp

都道府県･市町村名	青森県つがる市
担当者氏名	三浦　至学
担当部署名（役職）	経済部　観光・ブランド戦略課　主幹
郵便番号	038-3192
所在地	青森県つがる市木造若緑 61-1
電話番号（直通）	0173-42-2111（内線 433）
ＦＡＸ番号	0173-42-3639
Ｅ－ｍａｉｌ	shigaku_miura@city.tsugaru.lg.jp

都道府県･市町村名	青森県平川市
担当者氏名	葛西　陽菜
担当部署名（役職）	経済部　商工観光課　主事
郵便番号	036-0104
所在地	青森県平川市柏木町藤山 25-6
電話番号（直通）	0172-44-1111（内線 1455）
ＦＡＸ番号	0172-43-5005
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou@city.hirakawa.lg.jp

都道府県･市町村名	青森県鰺ヶ沢町
担当者氏名	長谷川　美桜
担当部署名（役職）	企画観光課　主事
郵便番号	038-2792
所在地	青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字鳴戸 321
電話番号（直通）	0173-72-2111（内線 346）
ＦＡＸ番号	0173-72-2374（代表）
Ｅ－ｍａｉｌ	mio_h@town.ajigasawa.lg.jp

様式１

都道府県･市町村名	青森県深浦町
担当者氏名	古舘　明香
担当部署名（役職）	観光課　主事
郵便番号	038-2324
所在地	青森県深浦町深浦字苗代沢 84-2
電話番号（直通）	0173-74-4412
ＦＡＸ番号	0173-74-4415（代表）
Ｅ－ｍａｉｌ	sayaka_kodate@town.fukaura.lg.jp

都道府県･市町村名	青森県西目屋村
担当者氏名	坂田　祐一
担当部署名（役職）	産業課　主事
郵便番号	036-1492
所在地	青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田 57
電話番号（直通）	0172-85-2800
ＦＡＸ番号	0172-85-2590
Ｅ－ｍａｉｌ	yuichi-s@vill.nishimeya.lg.jp

都道府県･市町村名	青森県藤崎町
担当者氏名	船水　優香
担当部署名（役職）	経営戦略課　主事
郵便番号	038-3808
所在地	青森県南津軽郡藤崎町大字西豊田１丁目１番地
電話番号（直通）	0172-88-8258
ＦＡＸ番号	0172-75-2515（代表）
Ｅ－ｍａｉｌ	kikaku@town.fujisaki.lg.jp

都道府県･市町村名	青森県大鰐町
担当者氏名	貴田　さくら
担当部署名（役職）	企画観光課　主査
郵便番号	038-0292
所在地	青森県南津軽郡大鰐町大字大鰐字羽黒館 5-3
電話番号（直通）	0172-55-6561
ＦＡＸ番号	0172-47-6742（代表）
Ｅ－ｍａｉｌ	syokoh@town.owani.lg.jp

都道府県･市町村名	青森県田舎館村

様式１

担当者氏名	大高　浩慎
担当部署名（役職）	企画観光課　主事
郵便番号	038-1113
所在地	青森県南津軽郡田舎館村大字田舎舘字中辻 123-1
電話番号（直通）	0172-58-2111（内線 243）
ＦＡＸ番号	0172-58-4751（代表）
Ｅ－ｍａｉｌ	koushin_otaka@vill.inakadate.lg.jp

都道府県･市町村名	青森県板柳町
担当者氏名	松山　亜由武
担当部署名（役職）	商工観光課　主事
郵便番号	038-3661
所在地	青森県北津軽郡板柳町大字福野田字本泉 34 番地 6
電話番号（直通）	0172-55-8033
ＦＡＸ番号	0172-73-2120（代表）
Ｅ－ｍａｉｌ	ayumu_m@town.itayanagi.aomori.jp

都道府県･市町村名	青森県鶴田町
担当者氏名	境谷　咲歩
担当部署名（役職）	商工観光課　主事
郵便番号	038-3595
所在地	青森県北津軽郡鶴田町大字鶴田字早瀬 200-1
電話番号（直通）	0173-22-2111（内線 253）
ＦＡＸ番号	0173-22-6007（代表）
Ｅ－ｍａｉｌ	sakiho_sakaiya@town.tsuruta.lg.jp

都道府県･市町村名	青森県中泊町
担当者氏名	菅原　光徳
担当部署名（役職）	水産商工観光課　課長補佐
郵便番号	037-0392
所在地	青森県北津軽郡中泊町大字中里字紅葉坂 209
電話番号（直通）	0173-57-2111（内線 1613）
ＦＡＸ番号	0173-57-3849（代表）
Ｅ－ｍａｉｌ	mitsunori-s@town.nakadomari.lg.jp

（登録）【地域連携DMO】 一般社団法人 Clan PEONY 津軽

様式2

記入日： 令和7年 7月 28日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
青森県弘前市、黒石市、五所川原市、つがる市、平川市、鰺ヶ沢町、深浦町、西目屋村、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町、鶴田町、中泊町

【設立時期】 令和2年4月1日

【設立経緯】
①区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設

【代表者】 櫻田　宏

【マーケティング責任者（CMO）】 笹田　哲文

【財務責任者（CFO）】 對馬　智文

【職員数】 8人（常勤8人（正職員0人・出向等8人）、非常勤0人）

【主な収入】
構成市町村負担金　44百万円（令和6年度決算）

【総支出】
事業費　49百万円、一般管理費　3百万円（令和6年度決算）

【連携する主な事業者】
地域内各観光協会、地域内各旅館ホテル組合、弘南鉄道（株）など

KPI（実績・目標）

※（ ）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標		54,946（—）	59,082（—）	63,368（—）	67,812（—）	72,420（—）
	実績	50,960（—）	58,664（—）	59,375（—）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	1,095（65.9）	1,095（65.9）	1,095（65.9）	1,128（67.9）	1,162（70.0）	1,196（72.1）
	実績	945（15.9）	1,073（58.8）	1,093（86.3）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標		95（—）	95（—）	95（—）	95（—）	95（—）
	実績	98.2（—）	98.3（—）	97.3（—）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	67.2（—）	68.2（—）	75（—）	75（—）	75（—）	75（—）
	実績	69.7（—）	78.2（—）	66.3（—）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
20～30代　関西圏（直行便のある大阪・神戸）
恋人・子どもがいない夫婦　2泊3日

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
直行便が就航している関西圏からの誘客については、青森県や弘前市と連携して効果的・効率的な誘客に取り組む。

【観光地域づくりのコンセプト】
「津軽時間旅行」
～　岩木山の恵みに触れる旅づくり　～

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・着地型旅行商品の造成・販売
　36事業者67商品
・着地型旅行商品の予約期限の短縮化、前日予約可能な旅行商品の増加
・コンセプトルームの造成

【受入環境整備】
・インバウンドの受入環境整備を目的とした現地調査事業

【情報発信・プロモーション】
・体験型商品予約システム運営
・JR東日本と共催した観光キャンペーンの実施
・（株）松屋との連携協定に基づく統一パッケージを使用した土産物新ブランドの立ち上げ

【マーケティング】
・観光DXを活用した津軽地域観光戦略策定事業